

「ネットワーク」 に関する現場技 ②

CA Technologies

実運用を見据えた現場技10連発

「ネットワーク」 に関する現場技

- 1、レプリケーション中に回線障害が起きたら？
- 2、スプールディレクトリに関する注意点
- 3、帯域制御機能の活用
- 4、レプリケーションに必要な帯域幅を見積もる

「同期」 に関する現場技

- 5、同期はいつ行われる？
- 6、同期にかかる時間
- 7、ホストメンテナンス機能で再同期せずに再起動

「切り替え運用」 に関する現場技

- 8、レプリカサーバを使って「とりあえず」運用
- 9、リストア機能でマスタに運用を切り戻し
- 10、クロスレプリケーションでサーバの設置台数を節約

④ レプリケーションに必要な帯域幅を見積もる

データの書き込み速度がマスタサーバとレプリカサーバ間の回線速度を上回ると、転送しきれないデータがスプールディレクトリに蓄積
＝ レプリカサーバのデータ鮮度が悪化

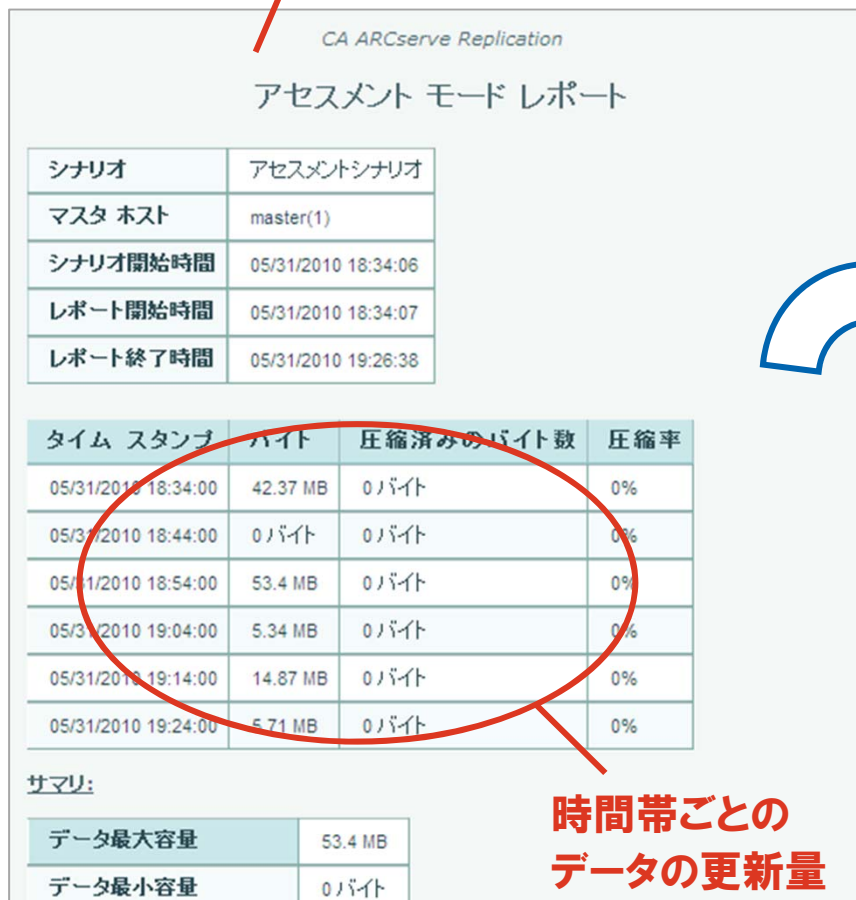


データの更新量と帯域幅のバランスを見積もる事が重要

4 レプリケーションに必要な帯域幅を見積もる

「この回線でレプリケーションできるの?」といった疑問を導入前に解消!!

アセスメントモードによる測定データ



データの更新量から、レプリケーションの遅延時間を解析。実環境でどれくらいのRPO(目標復旧地点)が達成できるのか、事前に知ることができます。

